

●刈払作業では体の防護もしっかりと

なぜ？

刈払作業では、切断した草、小石等が飛んできます。また、草むらの中には、異物が隠れていることがあります。

ヒヤリ、事故

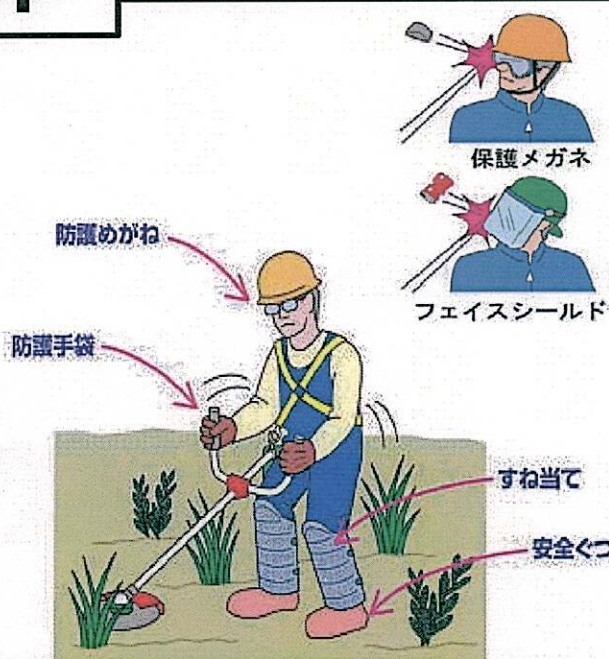
1. 畦畔の草刈中、木片が飛んで来て足にあたり、数日痛かった。
2. ぶどう園の下草刈作業中に柵の針金が飛んで長靴を通し左足に刺さり負傷した。
3. 草むらの中に大きな石があり、刃が欠けて目に飛び込んできた。直前に雨が降ってきたので、保護メガネが水滴で見えにくくなり外していた。

そこで…

対策ポイント

万が一のために、自身も保護具で守りましょう。

1. 手袋、安全靴、保護メガネまたはフェイスシールド、イヤーマフ、すね当て、その他保護具を装着します。
2. 保護メガネには曇り止めを塗ります。
3. エンジンに触れた時の火傷、刈刃の交換時の切り傷を防ぐためにも、必ず手袋を着用します。



さらに！

追加のヒント

1. 刈刃を膝より高く持ち上げると、顔面に飛散物が衝突する可能性が高くなるため、刈刃は膝よりも低い位置で作業します。
2. 刈刃への巻き付き、詰まりは、必ずエンジンを停止させ、刈刃が止まったのを確認してから取り除きます。

●刈払機の刈刃は必ず点検を

なぜ？

1. 刈刃にヒビが入ったり、欠けたまま、刈払機を使用すると破片が飛んできて危険です。
2. 刈刃の取付ネジは、「左ネジ」のことが多く、締め付けたつもりが誤って緩めてしまうことがあります。作業前に確実に点検しましょう。

ヒヤリ、事故

1. 草刈中に、刈刃(8枚刃)が割れて飛び、足にぶつかった。
2. 草刈作業終了後、点検したら、刃の一部が欠けてなくなっていた。
3. 草刈中に、刃が手裏剣のように飛んで行った。

そこで…

対策ポイント

1. 作業前に、刈刃のひび割れや欠け等を点検し、異常がある場合には新しいものと交換します。
2. 刈刃は確実に固定します(ネジを回す方向に注意する)。
3. 取り付けた後、回り止め工具は必ず外しておきます。その他ネジの緩み等も点検します。
4. 使用中に異常を感じた場合には、必ずエンジンを止めてから刈刃等を点検します。
5. 岩、石、切り株等障害物に接触させると、刈刃が損傷することがあるので、刈刃を点検します。



さらに！

追加のヒント

1. 刈刃を取り扱う際には手袋を着用します。
2. 万が一のため、予備の刈刃、工具等も作業現場に携帯します。
3. 刈刃を岩、石、切り株等の障害物に接触させると作業側側に跳ね返され刈刃と接触する恐れがあるので、刈刃を無理に振り回したり、地面に食い込ませたりしません。また、刈払機で樹木の枝を伐採するのも危険です。

●刈払機の飛散物防護カバーは ついてますか？

なぜ？

刈払機の飛散物防護カバーは、作業者の方へ飛散物が飛ばないようにするためのものです。作業しにくいとカバーを外さずに、必ず正しい位置に装着して安全に作業しましょう！

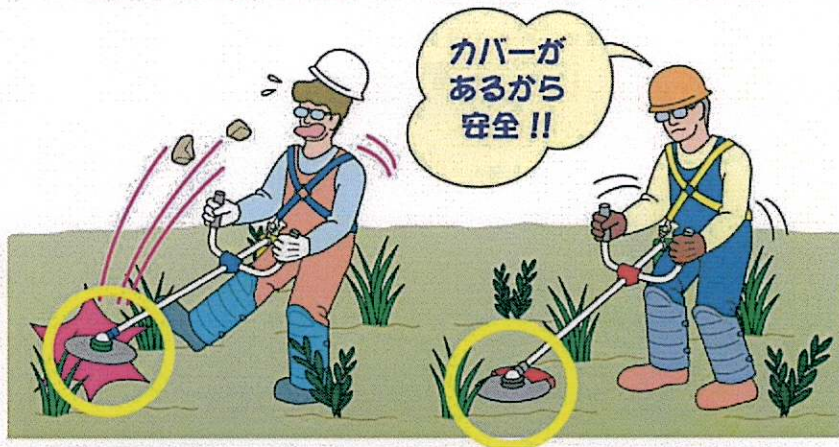
ヒヤリ、事故

1. 草刈り中、刃が石垣へ当たり、石の破片が飛んで足に当たった。
2. 畦畔を草刈り中、右目に石が飛びこんできた。翌日になっても痛みが引かないため病院へ行った。

そこで…

対策ポイント

1. 刈刃の飛散物防護カバーを、決まった位置に取り付けて使用します。後ろへずらしたり、取り外したりするのは危険です。
2. 刈刃の飛散物防護カバーが破損した場合には、新品に交換します。
3. 刈刃への巻き付き、詰まりは、必ずエンジンを停止させ、刈刃が止まったのを確認してから取り除きます。



さらに！

追加のヒント

1. 手袋、安全靴、保護メガネまたはフェイスシールド、イヤーマフ、すね当て、その他保護具を装着します。
2. 草丈が高い場合には、上下2段に分けて刈り取るのも有効です。
3. 作業前に、木の枝、空き缶、石、針金等を取り除きます。

●刈払作業前に空缶等を片付けよう

なぜ？

草むらの中に空缶等があると、飛んできて怪我をすることがあります。

ヒヤリ、事故

1. 畦畔の草刈中、木片が飛んで来て足にあたり、数日痛かった。
2. ぶどう園の下草刈作業中に柵の針金が飛んで、長靴を通して左足に刺さり負傷した。
3. 草むらの中に大きな石があり、刃が欠けて目に飛び込んできた。

そこで…

対策ポイント

刈払作業の前に、あらかじめ異物を取り除いてから作業しましょう。

1. 木の枝、空き缶、石等を取り除きます。
2. 刈刃に巻きつきそうなテープ、針金等も取り除きます。
3. 測量杭等の除去できないものへ目印を付けます。



さらに！

追加のヒント

1. 飛散物防護カバーを後ろへずらしたり、取り外すのは危険です。
2. 手袋、安全靴、保護メガネ等、適切な保護具を着用します。
3. 飛散した石等は、周囲の車、人に当たることがあるため、相手との距離を充分とり(15m以上)、作業方向にも配慮し作業します。
4. 草丈が高い場合には、上下2段に刈り取ることも有効です。
5. 木の枝を切ると刈刃が跳ね返される危険性があります。ツルを切ると刈刃に巻き付きトラブルを起こす危険性もあります。事前にノコギリや鎌で切り取ります。

●刈払機のエンジン始動は刃を浮かせて

なぜ？

1. 刈払機は、遠心クラッチのためエンジン回転が高くなると刃が自然に回り始めます。
2. 急に刃が回り出すと刈払機が飛び跳ね危険です。

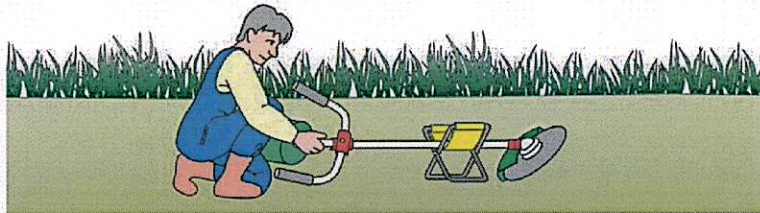
ヒヤリ、事故

1. 納屋で刈払機の点検中、エンジンをかけたら刃先が飛び跳ね、足を切った。
2. 夫が刈払機のエンジンをかけようとしたところ、意図しないタイミングでエンジンがかかり、後方にいた妻が刃で右足ふくらはぎを負傷した。

そこで…

対策ポイント

1. 刈払機の棹の下に角材やスタンドを当て、刃を地面から浮かせてからエンジンを始動します。
2. 固定式スロットルの場合は必ず事前にスロットルを下げます。



さらに！

追加のヒント

1. 火災の恐れがあるので、給油場所から3m以上離れたところでエンジンを始動します。
2. リコイルスターターを引く際には周囲にぶつからないか確認します。
3. 感電の恐れがあるので、プラグキャップや高圧コードに触れないようにします。
4. 刈払機を担いで移動するときには、作業者が振り向いて周囲の人を傷つけることがあります。エンジンを停止し、刈刃へカバーを装着します。

●刈払機が木に当たらないように

なぜ？

カタログの中には、刈払機で細い木を切ることができると説明があるものがあります。しかし、刃の当て方によっては刈払機が跳ね返されたり、木が自分の方に倒れてきたりすることがあります。

ヒヤリ、事故

1. 草刈り中、灌木を伐った時、刈払機の棹が思わぬ方向に振り回された。周りに人がいなくてホッとした。
2. 草刈り中、不用意に右へ振ったら刃が木の幹に当たり、反動で足元に刃が向かってきた。
3. 竹藪の間引きのために刈払機を使っていた。大きな竹だったので、二度切りをした。根本の部分を切っている時に上部が顔に当たった。
4. 草刈り中、刃が土手に当たり跳ね返り左足に当たった。
5. 刈払機の肩掛けバンドを外して作業していた。刈刃が地面へ触れ、足元で跳ね返されびっくりした。



そこで…

対策ポイント

1. 一般的な刈払機は刈刃が反時計回りに回転します。そのため、右側で刈ると作業側側に跳ね返されて(キックバック現象)、刈刃と接触する恐れがあります。必ず左側で刈ります。
2. 刈刃を岩、石、切株等障害物に接触させると作業側側に跳ね返される恐れがあります。刈刃を木へ押しあてたり、地面へ食い込ませないように注意します。

さらに！

追加のヒント

1. 跳ね返されるのを最小限にするため、肩掛けバンドに接続して使用します。
2. 障害物に接触した場合は刈刃が損傷していることがあるので、必ず点検します。

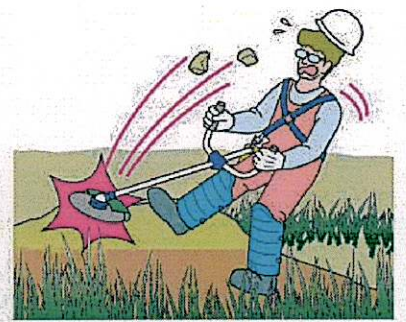
●傾斜地では足場を確認

なぜ？

1. 傾斜地では、足元が滑りやすく、崩れることもあります。傾斜地で転倒し、刈刃に触れて怪我をする事故が多発しています。
2. 高低差のある畦畔、水路、堤防等の法面は、傾斜地が多く特に注意が必要です。

ヒヤリ、事故

1. 急傾斜地法面を草刈り中、足が滑って転倒した。
2. 傾斜地の畑で草刈り中、肩に刈払機を掛けたまま、滑り落ちた。
3. 畦畔の草刈で、足元近くを刈る時、右足の指を切った。
4. 笹、小木の刈払い中に滑って転倒した。その時顔をぶつけて負傷した。
5. 高さ3mほどの法面で草刈中、足を滑らせた際、刈刃が切り株に当たって跳ね返り、右足の甲に刈刃が接触し怪我をした。



そこで…

対策ポイント

1. 滑り止め付きの靴を履き、転倒しないように一歩ずつ足場を確認しながら作業します。
2. 傾斜地では、足場を確保しながら等高線方向に作業します。
3. 複数で作業を行う場合は、15m以上の間隔を置きながら作業します。傾斜地では、傾斜の上下位置での作業は危険です。

さらに！

追加のヒント

1. 非常時に肩掛けバンドから機械をすぐ切り離せるように練習しておきます。
2. 刈刃をヒザより高く持ち上げると顔面に飛散物が衝突する可能性が高くなります。刈刃をヒザより下げて作業します。

●刈払作業者への合図は注意しながら

なぜ？

刈払機は騒音が大きく、遠くから声をかけても作業者は気が付きません。しかし、後ろから近づいて肩を叩いて知らせると、作業者が振り向いて脚を切られる恐れがあります。

ヒヤリ、事故

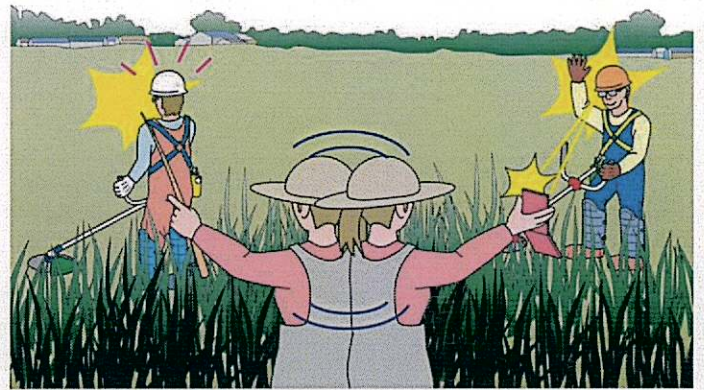
1. 草刈り中、後方から接近する者に気付ки不用意に振り向いて、刃を接触させそうになった。
2. 共同で草刈り中、他者の刈払機に接触し、負傷した。

そこで…

対策ポイント

あらかじめ安全な合図を決め、エンジンを止めてから話をしましょう。

1. 作業者の前方からは、鏡や笛で遠くから合図します。目安として15m以上の距離が安全といわれています。
2. 後方からしか接近できないときは、長い棒のようなもので作業者に接近知らせます。
3. 作業者は、エンジンを止めてから話をします。



さらに！

追加のヒント

1. 草刈り中に、石が飛び跳ねて、通行中の自動車や住宅の窓ガラスを破損するトラブルが多発しています。問題ない方向に向けて刈り払う等、作業方法を工夫します。
2. 複数で作業を行う際は、相互の位置状況を把握した上で安全を確保します。